

## 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

### 1. 今後の見通し

予測期間：2006年10月上旬から11月中旬までの旬別  
 対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域  
 対象漁業：さんま棒受網漁業  
 対象魚群：南下回遊群

#### 1) 道東海域

- (1) 来遊量：10月上旬は、高位水準であるが、来遊量は徐々に減少を始め、10月中旬には中位水準、10月下旬には低位水準となる。11月中旬には断続的となり、ほぼ終漁となる。
- (2) 漁場：10月上旬～下旬は、落石～釧路沖と襟裳岬沖が漁場となる。落石～釧路沖の漁場は、11月上旬以降消滅し、11月上旬～中旬は、襟裳岬沖に漁場が残る。

#### 2) 三陸海域

- (1) 来遊量：10月上旬には、中位水準に増加し、10月中旬～下旬は中位水準で推移する。11月上旬～中旬は、ゆるやかに減少する。
- (2) 漁場：10月上旬は八戸～宮古沖、10月中旬は八戸～気仙沼沖が主漁場となる。10月下旬～11月上旬は、三陸北部～南部にかけて漁場が広がる。三陸北部の漁場は、11月上旬には散発的となり、11月中旬は南部が主漁場となる。

#### 3) 常磐海域

- (1) 来遊量：10月中旬は来遊量が少なく、漁場ができて断続的である。10月下旬は、低水準ながらも本格的な来遊がある。来遊量は徐々に増加し、11月中旬には中位水準となる。
- (2) 漁場：10月上旬は、漁場形成が無い。10月中旬は、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。10月下旬～11月上旬は、常磐北部が主漁場となる。11月中旬には、漁場が鹿島灘まで広がる。

### 2. 予測の概要

海 域		10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	高位低下	中位低下	低位減少	低位減少	断続的
	漁 場	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	襟裳岬沖	襟裳岬沖
三陸海域	来遊量					
	動向	中位増加	中位増加	中位水準	中位減少	中位減少
	漁 場	八戸～宮古沖	八戸～気仙沼沖	北部～南部	北部～南部	南部
常磐海域	来遊量					
	動向		断続的	低位水準	低位増加	中位増加
	漁 場		北部	北部	北部	北部～鹿島灘

### 3. 漁況の経過概要

(9月中旬)

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、9月上旬を上回ったものの、前年並みの低水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は、期半ばに増加した。

##### (2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石南東～南沖の 10～15 海里付近と厚岸大黒島沖であった。落石南東～南沖の 10～15 海里付近では、ほぼ連日、大型船数隻と小型船多数が操業した。漁場となった表面水温は、13～19℃。漁獲量は大型船で 60～90 トン程度、小型船は満船となる船が多かった(19 日夜は台風 13 号の影響により、小型船は休漁)。

厚岸大黒島南南東 40～55 海里付近の表面水温 18℃では、12 日夜に大型船数隻と小型船 20 隻程度が操業。漁獲量は、大型船で 20 トン程度、小型船はほぼ満船となった。

厚岸大黒島南南東 25 海里付近の表面水温 14～15℃では、20 日夜に小型船 20 隻程度操業した。満船となった。

##### (3) 魚体

29～31cm モードの大型魚が主体。中型魚以下の魚の混じり具合は、1～3 割程度。体重 140～150g 台が主体。